

令和 6 年度

「いわての復興教育」

# 実践事例集



令和 7 年 3 月  
岩手県教育委員会

## いわての復興教育推進事業「いわての復興教育スクール〈沿岸〉」実践事例

学校名：宮古市立宮古西中学校

### I 事業の概要（地域の実情含む）

本学区は、旧宮古市の西部を北から三分した中央部を占め、東西に長く広がる。学区の西側は農村地帯、東側は住宅地帯と準工業地帯を形成。丘陵部まで宅地開発が進み、県営・市営アパート、会社の公舎、雇用促進住宅が立ち並び、新旧混在の変貌著しい地域である。東日本大震災後は高規格道路網の整備が進んでいる。

東日本大震災より 10 年以上が経ち、実際に被災した経験がある生徒は少なくなっている。学区が内陸寄りに位置しているため、震災では津波による住宅への被害を受けることはなかったが、震災後に津波被災地区から移住してきた家庭もあり、災害に対する意識は家庭によってさまざまである。

本校は宮古市の高台に位置していることから、災害時には避難所となる可能性がある。地震・津波による災害の他に、大雨や土砂災害に対する警報等が発令された場合も避難所が開設される。

本事業では、東日本大震災の被災地見学、体験を通して、自然災害への心構えや備えについての意識を高めるとともに、避難所対応など災害時に率先して行動し、地域に貢献できる生徒の育成をねらいとして実施した。

### II 取組の概要

#### 1 事前学習

##### （1）震災の概要（規模、被害）についての理解

震災学習の事前学習として、震災当時の状況（どんな災害だったか、被害状況、現在の復興の状況等）について調べ学習を行った。

##### （2）災害時の避難所運営の実践

避難所の実際の状況やどのように運営されてきたのかについて学習し、避難者の困りごとや運営に必要な工夫について話し合うことを通して考えを深め、野外活動センターで行う「避難所運営ゲーム・HUG」に向けての事前準備を行った。

##### 【生徒の振り返りから】

- ・自分は東日本大震災の記憶はないけれど、とても大きな被害があったことが分かった。
- ・災害はいつ発生するか分からないので、日頃から備えておくことが大切だと思った。

- ・避難所がどんなものか分かった。避難されている方がより快適に過ごすことができるためには、どんな工夫が必要なのかについて考えた。

#### 2 震災学習（宿泊研修）

##### （1）学習計画

| 月 日                  | 内 容           |
|----------------------|---------------|
| 2月14日（水）総            | オリエンテーション     |
| 2月28日（水）総            | 調べ学習①         |
| 3月6日（水）総             | 調べ学習②         |
| 5月7日（火）総             | 係会議 しおり読み合わせ  |
| 5月14日（火）             | 結団式           |
| 5月15日（水）<br>5月16日（木） | 宿泊研修（震災学習）    |
| 5月17日（金）             | まとめ（レポート、お礼状） |

○避難所とは何か（社会、各学級 2 時間）

##### （2）震災遺構・東日本大震災津波伝承館見学

「釜石祈りのパーク」「東日本大震災津波伝承館」の見学及び、「高田松原津波復興祈念公園パークガイド」を活用し、震災遺構の見学を行った。



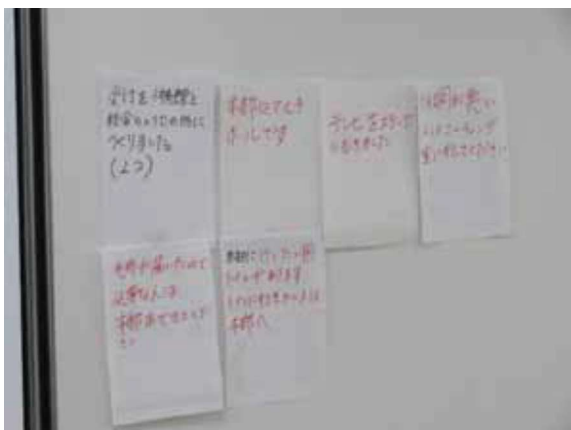
##### 【生徒の振り返りから】

- ・鶴住居の釜石祈りのパークには、東日本大震災を受けて学んだことが「釜石市防災市民憲章」として石碑に刻まれていました。自分も大切にしたいと思いました。
- ・旧気仙中学校の校舎内は、津波の恐ろしさを感じさせるものが残っていた。ゆがんだ防火扉や砂まみれのピアノ、ぶら下がったスピーカーなど。2時 46 分で止まっている時計もあり、当時の様子が想像できた。

### （3）避難所運営ゲーム「HUG」

「HUG」とは災害時などの避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして考えられた図上訓練で、具体的で実践的な避難所運営を疑似体験できる。

生徒は事前学習で学んだ避難所に関する知識を活用しながら、宮古西中学校の体育館・校舎が避難所になった場合を想定しながらゲームに取り組むことができた。



#### 【生徒の振り返りから】

- 様々な事情を抱えた人が次から次へと避難所に来て、班の人で分担していても対応が追いつきませんでした。このゲームを通して、避難所を運営する人はとても大変なことを実感しました。
- 体験が終わった後の質疑・応答で、他のメンバーや他のグループがどうしてその行動をしたのかを聞くことができた。人によって考え方は様々で、時間のなかで話し合いを通じて決定していくことが大切だと思った。

### 3 学習のまとめ

#### （1）レポート作成

宿泊研修後、全体の振り返りとして、まとめレポートの作成を行った。

### （2）お礼状作成

震災学習でお世話になった「高田松原津波復興祈念公園パークガイド」と「岩手県立野外活動センター」の方々へお礼状を作成した。

#### 【生徒のまとめから】

- 実際に被災地を回ってガイドの方から説明をいただいたことで、インターネットや映像だけでは分からないことをたくさん学ぶことができた。
- 災害については、いつ起こるか分からないので、いつも備えておかなければいけないことを改めて実感しました。
- 私は震災のすぐ後に生まれました。これだけ大変な状況の中で、自分を産み育ててくれた親に感謝がありません。自分の命も周りの人の命も大切にしていきたいと思いました。

## Ⅲ 取組の成果と課題

### 1 成果

被災地域での見学や体験を通して、被災の現状を実際に目の当たりにすることで、災害が起こった時に自分自身が取べき行動や、地域の人々がどのような思いをもって復興に向けて取り組んできたかについて考えるきっかけとなり、生徒にとって大きな経験となった。

避難所運営ゲーム・HUGでは、事前学習で考えたことをもとに、グループで活発に意見を出し合いながら、課題解決に向けて積極的に取り組むことができた。学校の体育館に避難所が開設された場合を想定して行ったことで、運営の難しさを実感するとともに、より身近なこととして自分に何ができるかを考えることができた。

### 2 課題

防災学習については、何をどのように学ばせるかを系統的に考え、一回の学習で終わらずに計画的に実施していく必要があると感じた。今後も、復興教育の全体計画を活用しながら、宿泊研修で学習したことが日々の教育活動とどのように繋がるのかについて、意識した指導を心がけたい。

生徒によって、今後の生き方について考えることができた生徒と震災の知識で留まっている生徒の差が見られる。テーマ設定や調べ学習について、自分事となるようなフォローを入れることができたなら、さらに良かったと考える。